

(様式1)

ながのまちづくり活動公開審査申込書

申込年月日	平成 25 年 2 月 4 日	受付番号	19
活動部門・コース	1 企画・研究部門	② 実践活動部門	① ホップコース (スタート枠) ② ホップコース ③ ステップコース ④ <u>ジャンプコース</u>
団体の名称	(71ガナ)ナガヌマレキシケンキュウカイ 長 沼 歴 史 研 究 会		
団体の所在地			
代表者	(71ガナ) ササイ タエネ 氏名 笹井 妙音		
連絡先 (連絡責任者)			
団体の設立年月日	平成 20 年 6 月		
団体の 設立目的	①当地区の歴史及び長沼城の研究を進め地域住民と認識を深める。 ②長沼城の案内標識や縮小模型を地域の人たちと共に作り、地域に眠っていた、歴史的財産をいかし、歴史の町として地域の活性化を図る ③中近世の歴史を求めて、地区外からも訪れたいくなるような町作りを目指す。		
団体の 活動実績	①H21年2月研究発表「長沼城はどこですか？」を開催。幻とされていた城の存在を明らかにする事ができた。 ②地域に眠る古文書や新史料の発掘、収集をし、発掘した資料の目録をつくる。 ③H22年2月研究発表「今甦る長沼城」数々の史料から導かれた城跡とは？を開催。どのようにして城の解明に至ったか、発見した史料を初公開した企画展を同時に開催した。 ④H23年8月「雨降り街道と長沼宿」の企画展示会を開催、長沼宿文書を公開した。 ⑤H23「歴史薫るまち長沼」史跡巡りマップを作成し、住民自治協議会の協力を得地域全戸に配布する。 ⑥明らかになった城跡の看板を堤防上に設置する。 ⑦H24年9月城跡を巡る「歴史ロマン散歩」を実施する。 ⑧H24年9月戊の満水270年に合わせ「水に流すな洪水史・古絵図が語る水害の歴史」の研究発表並びに企画展を開催し、地域の洪水史料・お助け船を展示した。		
構成員(会員)数	男性12名 女性4名		

<p>応募する活動のタイトル</p>	<p>「今 甦る長沼城」 ～歴史が感じられる町作りを目指す～</p>	
<p>応募する活動の目的及び達成目標</p>	<p>(現在の地域や社会の問題・課題と応募する活動の目的)  町作り支援金により、地域の中に 320 年解明されないまま眠っていた城が、各箇所に看板が立ち、史跡マップが配付される等して、見えるようになって来た。しかし、城があり、北国裏街道が通り、長沼宿が栄え、一茶は 660 日も滞在したこの地には、賑やかであったと思われる江戸時代の歴史遺産が沢山ある。今までは見えない物(城)の解明を進めてきたが、今年は今残っているこれらの遺産(石造物等)に視点をおき歴史解明を進めていきたい。「歴史薫るまち長沼」としてさらに体感できる町作りを目指していく。</p> <p>(応募年度の達成目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在調査している長沼地域の石造物(庚申塔・道祖神・観音像・地藏菩薩・石塔・石祠・十王・筆塚・・)を資料としてまとめ、企画展をする。</li> <li>・公民館で企画している句碑巡りに協力し、会員はそこかしこに立つ石造物の解説ができるよう知識を深める。</li> <li>・今まで断じて公開を拒否して来た赤沼区の文書が公開許可となった。この地域の歴史解明にむけ調査を進める。</li> <li>・今年は御用水文庫の蔵開きにあたるため、三度目の調査をする。 御用水文庫の史料から歴史をひもとく。</li> <li>・長沼の歴史(島津氏の館が武田の城となり、佐久間藩として独立、廃城に至る歴史)を題材とした冊子をつくり地域の子供達に伝える</li> </ul>	
<p>応募する活動の具体的内容</p>	<p>※実施項目、場所、対象者など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①毎月 1 回長沼地域の歴史について、会員相互で研究・協議する。</li> <li>②石造物の資料集を作る。年号・所在地・型・高さ・記銘分・特徴・備考など又写真や所在地の地図、それぞれの石造の意味について記載する。</li> <li>③石造物の企画展示会を開催する。写真とその説明文等を展示し、解説する。</li> <li>④赤沼区有文書の調査をする。出てきた史料を検証し、まとめる。</li> <li>⑤中世の城を見学する。</li> <li>⑥長沼城の歴史を題材とした冊子をつくり、子供達に読み聞かせをする。</li> </ol>	
<p>年 間 計 画</p>	<p>4 月 5 月 6 月 7 月 8 月 9 月 10 月 11 月 12 月 1 月 2 月 3 月</p>	<p>御用水文庫史料調査をする。 長沼の石造物、現在の調査数 249 個を検証し、その他の石造物の調査をする。</p> <p>地域ごと担当を決めて石造物の写真をとる。中世の城を見学する。(場所未定) 長沼歴史物語(仮称)の骨子について話し合う。</p> <p>長沼の石造の位置を地図上で確認し、石造物の地図をつくる。歴史物語について</p> <p>長沼の石造物資料集をまとめる。歴史物語について</p> <p>長沼の石造物展示会を企画、開催し、説明をする。 "</p> <p>一茶生誕 250 年当地区の史跡、句碑巡りに協力する。 "</p> <p>赤沼区有文書調査より史料の検証を行う。 "</p> <p>赤沼区有文書の史料検証を行う。 "</p> <p>赤沼区有文書の史料検証を行う。 "</p> <p>赤沼区有文書の史料検証を行う。 "</p> <p>一年の活動報告のまとめをする。 "</p> <p>来年度の活動計画について話し合う</p>

<p>活動することで期待される地域や社会への具体的な効果・成果</p> <p>※「公益性」の視点</p>	<p>①地域の人が、先ず自分の住む地域の歴史や、歴史遺産を知る事により、地域に誇りを持ち、地域を愛し、地域を大切に守る心、郷土愛を育む事ができる。この活動を始めて5年目になるが、この間長沼城の解明に始まり長沼宿の古文書公開等の研究発表や企画展を毎年開催してきた。昨年行った研究発表と企画展「古絵図からみた災害の歴史」では地区に残る「お助け船二艘」の展示もし、317名が訪れるなど、地域内外の関心の高さを伺い知る事ができた。又長沼を知って頂く良い機会にもなった。今年度は長沼城の戦国時代から廃城(江戸初期)に至るまでの歴史背景を描いた冊子をつくり地域の子供達に伝えて行く。郷土愛に繋がる事を期待する。</p> <p>②マップ「歴史薫るまち長沼」が出来た事により、大勢の人に長沼を一目で説明ができ、理解を深めてもらう事ができるようになった。又城跡の解明に伴い、各所に看板を設置することもできた。城が地域の中に見えるようになった事により、地域を訪れる人も増え、ガイド役を依頼されるようにもなった。今後も長沼の認知度を広めるため、研究発表や企画展、などを行い伝えて行く事が大事である。それが高齢化の進むこの農村地域の集客に繋がり、地域活性の一役になると考えられる。</p> <p>③長沼は城跡だけでなく、寺や神社も多く、みごとな文化遺産も多い、一茶の関係資料も多く残っている。これら歴史遺産を起爆剤として地域全体で地域振興を考えて行く必要を感じる。史跡解説看板をもっと増やしたり、地域の産物を使ったおもてなしの場、お茶のみ処(いっぷく亭)などができたら、さらに地域巡りも楽しめると思う。訪問客の増加にともない農産物売り上げが期待される。</p>
<p>活動を継続するための取り組み(資金面、人材等)</p> <p>※「自立性」の視点</p>	<p>①研究については今後も地道に続けていくが、事を成し遂げる収入は、今の所見込めない。看板はもっと必要である。発掘した資料を残すにあたっては資料集作成資金の目処は無い。今後、更に解明のすすむ事柄をどのような形で発表し、残していったら良いか思案中である。</p> <p>②昨年は城跡ガイドで少しお金が入った。マップは50円でアグリ長沼で販売しているが収入といってもその程度である。</p> <p>③今後の活動資金をどのように捻出するか課題である。</p> <p>④住民自治協議会の協力が得られるよう働きかけていきたい。</p> <p>⑤長野市文化財課等の協力が得られる方法はないか、教えてほしい。</p>
<p>翌年度以降の活動内容の概要</p>	<p>翌年度</p> <p>①城跡ガイド・地域巡りガイドの養成、実施</p> <p>②研究発表—長沼の歴史—</p> <p>③企画展開催 —長沼の文化財—(仮称)</p> <p>④企画展開催—武田常蔵作品展—(谷文晁に画を学び、石川藤吉に師事して伽藍彫刻を学んだ宮大工にして彫刻師である。その彫り物は感動的である。)</p> <p>⑤長沼の歴史物語紙芝居をつくり読み聞かせをする。</p> <p>翌々年度</p> <p>①平成17年(2016)佐久間氏長沼城入城400年までに長沼城の復元模型図を作る。</p>
<p>事業の最終目標</p>	<p>・長沼地区の古代から近世に至る歴史を紐解き、啓発し、後世に伝える。そのため「長沼の歴史」—長沼城と千曲川—(仮称)を出版したい。</p>

